

ぶらっと散策 4 長岡京市探訪

期日：2023年10月19日（木）JR長岡京駅AM9：50集合

参加者：出席 30名、欠席 5名 CA 3名

- 当日JR京都線の事故により大幅な列車運行に支障が出たが、定刻より少し遅れ何とか探訪実施を行えた。
- A、B2グループに分かれ、NPO長岡京市ふるさとガイドの会の皆さんにより説明を受けた。

• 訪問先

• 神足ふれあい町家（国登録有形文化財）

西国街道に面して建つこの住宅は、切妻造で三面に庇を回し、表構えに格子と出格子を並べ、大屋根の下の白壁に虫籠窓（むしこまど）を開き、間口が広く田の字形の間取りは、京の町家と違い農家風で独特の風情があります。

この住宅は、神足村の旧家岡本家一族の商家で、江戸時代は和紙を商っていたようで現在は、長岡京市が取得し、『神足ふれあい町家』として整備・公開しています。



• 与市兵衛の墓



江戸時代に作られた歌舞伎や人形浄瑠璃の仮名手本忠臣蔵の五段目『山崎街道』のくだりに出てくる話。赤穂義士の萱野三平をモデルとする。萱野三平の義父・与市兵衛が、三平を討ち入りに参加させる費用捻出のため、娘のお軽を祇園に身売させたものの、山崎に戻る途中この地で山賊に襲われ命を落としたといい、長らく地元では与市兵衛の墓だと言い伝えていたが、昨今の研究で、この碑は清誉浄佐なる人物が、両親の供養のため建てられたものとみられている。

・恵解山古墳公園（いげのやまこふんこうえん）



恵解山古墳は、古墳時代中期に築造された乙訓地域最大の前方後円墳で、桂川右岸の標高わずか16mの台地につくられており、全長約128m、後円部の直径約78.6m、高さ10.4m、前方部の幅約78.6mと推定されている。周囲に幅約30mの周濠があり、周濠を含めた古墳の全長は訳89mに及ぶ。



・勝竜寺城公園

勝龍寺城は、暦応2年細川頼春によって築城され、天正6（1578年）年明智光秀の娘玉（後のガラシャ夫人）が、細川忠興に嫁ぎ2年間この城で幸福な新婚時代を過ごした。

本能寺の変の後、山崎の合戦では光秀がこの城に本陣を構えた。敗れた光秀が坂本城を目指してこの城から敗走したと伝わります。

勝龍寺城の主郭部分は東西120m、南北80mの長方形をしており、東、北側の幅12mの水堀を残している。また東、西、北の三面には土塁が残っている。

細川藤孝による大改修は、安土城に先行する「瓦・石垣・天守」を備えた近世城郭の原点とされる。



• 勝龍寺



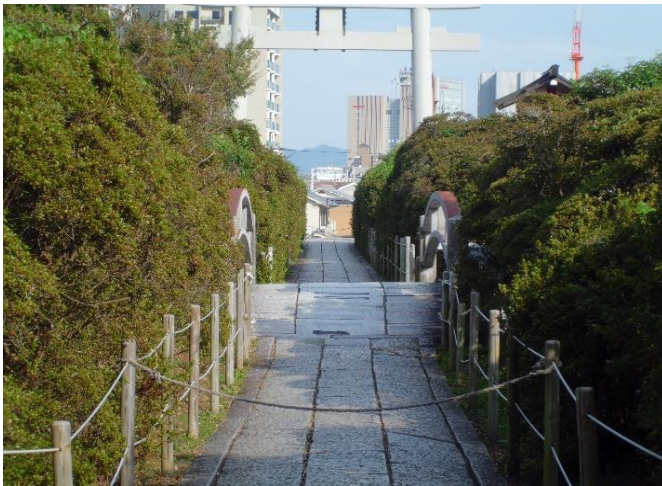
勝ち運・ボケ封じのお寺、大同元年（806年）に帰朝した弘法大師が、唐の長安で修行した青龍寺の名をとって創建したとされる。嵯峨天皇のころ、勅願により観音堂をはじめとした九十九坊が建てられ、勝龍寺の名が広く知られた。

• 神足土塁公園



神足神社に隣接するように勝龍寺城の土塁・空堀が残されており、細川藤孝が城の大改修時に造営したもので、ここに在った国人・神足氏の居館である神足城を勝龍寺に組み込んだと考えられている。調査時新たに土塁下から6世紀後半の方墳である神足古墳が確認された。

• 長岡天満宮



長岡天満宮は、長岡京市にある神社。旧社格は府社で市民からは『天神さん』と呼ばれ親しまれている。延暦3年（784年）桓武天皇が平城京から都を移した長岡京が造営されたところであり、長岡天満宮は都の西南の外れに位置している。

現社地周辺は平安時代に菅原道真の所領であったとされ、在平業平らと共にしばしば遊んで詩歌管弦を楽しんだ縁深いところであるという。

社地は元10万余坪に亘っていたが、明治維新に際し上地のため、現在は2万余坪を残している。

現在の本殿は、昭和16年平安神宮の社殿を拝領移築したもので、正面の朱塗りの拝殿は『菅公御神忌1100年大万燈祭』を奉賛して、既存の拝殿を増改築したものである。本殿への参道の途中にある弁天池の周辺は、回遊式庭園として近年整備された。八条が池には、檜で作られた水上橋がありそこから池を中心として境内を一望できる。八条が池の中堤両側には、樹齢百数十年のキリシマつつじが有名である。

（担当：4班）